

平成 21 年 6 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2005～2008

課題番号：17520107

研究課題名（和文） 藤原俊成の総合的研究

研究課題名（英文） A General Study of Fujiwara Shunzei

研究代表者

渡部 泰明(WATANABE YASUAKI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：60191813

研究成果の概要：中世和歌の形成に多大の功績を果たした歌人藤原俊成に対し、その撰集『千載和歌集』の配列構成に新知見をもたらし、またその歌論上の主著『古来風躰抄』の注釈を、最新の成果を盛り込みつつ完成させ、また源実朝・頼阿・宗祇（古今伝授）など、中世和歌の重要歌人・課題について、新たな視点を提示した。いずれも、従来の研究史において不足していた、和歌史的な視座のもとに新たに位置付け直す点に特徴がある。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	700,000	0	700,000
2006 年度	500,000	0	500,000
2007 年度	400,000	120,000	520,000
2008 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
総計	1,900,000	210,000	2,110,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：藤原俊成・古来風躰抄・中世和歌

1. 研究開始当初の背景

和歌の研究は、戦後急速に精密化したが、それが歌人別、歌集別に細分化する弊も招いた。実証的な水準は保持しつつ、和歌史的・歴史的視座から、藤原俊成および中世和歌を文学的に意味づける必要性が渴望されていた。

2. 研究の目的

研究目的は主として三点から成る。(1) 藤原俊成の和歌の研究、(2) 藤原俊成の歌論の注釈的研究、(3) 新古今時代を含めた中世和歌の研究、である。(1)は、『千載和歌集』ほか、藤原俊成の和歌表現および和歌観の分析、(2)は『古来風躰抄』の注釈の

完成、(3)は源実朝・頼阿・宗祇らの表現意識の分析である。

3. 研究の方法

実証主義を基本としながら、その結果を和歌史的な視座のもとに分析し、背後にある表現意識を歴史的な文脈の中に位置付ける。

4. 研究成果

(1)『千載和歌集』の配列構成に新見を提示した。(2)最新の研究成果を取り込みつつ『古来風躰抄』の注釈を完成し、藤原俊成の歌論研究に画期をもたらした。(3)源実朝・頼阿の歌人像を一新した。古今伝授の意味付けに新視点を提示した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

1. 渡部泰明「八大龍王雨やめたまへ
源実朝の「音」」『文学 隔月刊』第6
巻第4号(2005年7月) 岩波書店、
25~36頁、査読なし。
2. 渡部泰明「頓阿論 題詠のポエジー」
『文学 隔月刊』第7巻第3号(2006
年5月) 岩波書店、65~78頁、査読
なし。
3. 渡部泰明「『千載和歌集』 中世の虚
構と現実」『国文学解釈と鑑賞』第72
巻5号(2007年5月) 至文堂、6~
13頁、査読なし。
4. 渡部泰明「九相詩の和歌をめぐって」『説
話文学研究』第42号(2007年7月)
説話文学会、119~124頁、査読あり。
5. 渡部泰明「表現論 掛詞・縁語をど
う考えるか」『国文学』12月臨時増刊
号 第52巻16号(2007年12月20日)
学燈社、90~97頁、査読なし。
6. 渡部泰明「「しらべ」論の根拠」『古代
文学』第47号(2008年3月) 古代
文学会、20~25頁、査読あり。
7. 渡部泰明「古今伝授の想像力 『古
今和歌集両度聞書』・『古聞』を読む
」『文学 隔月刊』第9巻第3号(2008
年5月) 岩波書店、40~52頁、査読
なし。

[学会発表](計2件)

1. 渡部泰明「九相詩の和歌をめぐって」(説
話文学会、2006年10月7日、慶應義塾
大学)
2. 渡部泰明「「しらべ」論の根拠」(古代
文学会、2007年5月5日、共立女子大学)

[図書](計1件)

1. 渡部泰明・小林一彦・山本一著『歌論
歌学集成 第七巻』(三弥井書店、2006年10
月)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡部 泰明(WATANABE YASUAKI)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：60191813

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者